



ごあいさつ

平成18年6月

理事長 長谷川良男

皆様には平素より新発田信用金庫に対しまして、格別のご愛顧、お引立てを賜り、誠にありがたく心より御礼申し上げます。

当金庫は、大正13年7月の創業以来一貫して地域社会の繁栄に貢献することを基本理念として、地域金融機関として地域との共存共栄を使命に徹してまいりました。

本年も当金庫に対する皆様のご理解を深めていただくとともに、今後一層のご愛顧を願いたく本誌「しんきんレポート2006」を作成いたしました。

平成17年は平成の大合併により5月には新生・新発田市、9月に胎内市が誕生スタートし、今後の地域経済や環境面での大きな展望と飛躍が期待されております。

日本経済を見ますと、穏やかな回復傾向を辿り、設備投資や個人消費増加といった国内需要の主導により確実な回復基調となりました。しかし、地域・企業規模間での格差は依然として大きく、地方においては景況感の回復の遅れが目立っており、中小企業の多くが景気の回復を感じるにはもう少し時間を要するものと思われまます。

このような環境の下、金融界においては、世界最大のメガバンクの誕生、郵政民営化関連法案の成立など政策金融についても大幅な見直しが行われることとなりました。

金融界において公表された「地域密着型金融の機能強化に関するアクションプログラム」の求めている地域金融機関として、地域経済の礎である中小企業の育成と支援のため安定した資金を供給することは無論のこと、経営相談、経営支援に向け一層の信用リスク管理能力、コンサルティング能力の開発、向上を図ってまいります。

新年度は多様化するリスクに対応したリスク管理の高度化や新BIS規制をも踏まえた経営監視・チェック体制強化を行ない、地域の皆様から信頼を得られるよう役職員一同誠心誠意努力してまいります。

今後ともより一層のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りし、ご挨拶といたします。

2006
SHIBATA SHINKIN
DISCLOSURE

しんきん レポート